

令和6年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：8月19日（月）

会 場：甲奴健康づくりセンターゆげんき

参加者数：32人

参加者の発言	市の発言	備考
・防犯・防災、交通安全や行方不明者の捜索などの問題解決に向け、住民自治組織として、町内に4台の防犯カメラを設置している。引き続き、コミュニティセンター等へ順次、設置していく計画である。 ・市としても、主要道路に、防犯カメラを設置してほしい。有事の際に、より迅速で的確な対応が可能となる。市としての今後の方向性や考えを伺いたい。	住民自治組織の活動に感謝申し上げる。防犯カメラの設置など、防災意識が非常に高いと実感した。高齢化により、認知症になる人も増加する。防犯カメラも一つの対策と考えられる。地域や民生委員の皆さんの協力も必要である。さらには、GPS機能を利用し捜索するなど、いくつか手段が考えられる。市内の全路線に防犯カメラを設置することは経費的に極めて困難である。高齢者が安心して住める環境づくりについて、いろいろな事例を参考にしながら調査研究をし、課題解決に向けた取組を進めている。	
道路に中央線を引いてほしい。また、灰塚ダムの三良坂と総領の交差点について、別れ道の標示や線が消えている。点検と改善をしてほしい。	道路の白線や安全標識については、計画的に対応している。その中でも特に重要あるいは危険な箇所については、予算化をして、改善をしている状況である。通学路についても、確認しており、危険な箇所は改善している。今後も計画的に進めていく。	
・給食センターの残菜はどのくらいあるのか。子どもが食べる頃には、保管庫の中で味が変わるのではない。子どもが食べなければ、栄養面に問題がある。 ・人数が減ったからと言って、給食センターから届けることはやめてほしい。地域に給食センターがあるところは、残してほしい。	・給食センターでは、最新の設備を用いており、食感や温度管理に配慮した調理をしている。調理員の皆さんの努力や工夫もあり、温かいものや冷たいものが適切な状態で子どもたちに届けられている。また、新しい衛生管理基準に対応できる施設である。 ・学校では、食材の提供をしていただき、苦労して作ってもらっていること、バランスの取れた栄養のある食事が自分の体を作っていく大切なものだという食育について、日常的に話をしてもらっている。ただ、どうしても残菜はある。調理員の皆さんに栄養職員のカロリー計算や献立に基づいて作ってもらっているが、子どもの状況に応じて、量を見極めながら作っている状況である。しっかり栄養を取っていけるように、これからも給食の指導を大切にしていきたい。 ・給食センターの老朽化の状況を把握しながら子どもたちに三枚らしい、安全・安心でおいしい給食をきちんと届けることを大切にして、進めていきたい。	
ピースベル甲奴では、子どもの長期休みに、子ども食堂の活動をしている。甲奴放課後児童クラブ、小童放課後子ども教室を対象にし、昼食を提供している。8月5日に、今年度の子ども食堂を実施した。実施後、子どもたちから御礼の挨拶とプレゼント箱を受け取った。箱の中には手作りのカラフルな指輪が入っており、子どもたちの優しさや思いやりに感動した。このことを、市の広報紙などで紹介し、皆さんへ子どもたちの優しさを伝えたい。	地域ぐるみで子どもを育て、保護者や子どもたちへの支援の取組が、子どもたちへ伝わり、それに子どもたちが応える姿に感銘を受けた。市長部局と相談しながら市広報紙の掲載への工夫を検討したい。	【発言者へ回答】市広報紙の「市長コラム」欄で紹介
メルカリの取組について、成果や反響はどうか。空き家からたくさんのお家財がでて、整理にかかる定住者の負担が大きい。移住のための引越しには、時間が足りず、処分できない。使えるものを保管する倉庫があればよいと思う。	市公営のメルカリショップスを立ち上げて、まだ1年経っていない。今の段階では、各部署等で不要となったものを出品し、いろいろな人に利用いただけており、リユースをしたい人がたくさんいると実感した。市がこのような取組をすることにより、様々な事業者や団体等に波及すればよいと思う。この1年間を通した状況について、皆さんに別途報告させてもらう。	【住民自治組織へ回答】 (メルカリの取組について) 三次市では広島県内の自治体で初めて令和5年9月28日に「メルカリShops」で公式ショップを開設し、庁内で不用になった備品等の販売を開始しました。令和5年度の実績は、出品数206品、売却数127品、売上309,400円あり、大変好評いただいています。市民啓発としてリユースへの取組のきっかけとなるよう、「メルカリエコボックス」を無償配布する取組も行っています。 (空き家の家財整理について) 空き家の家財の取り扱いについて、ご提案いただいた「使えるものを保管する場所」については、家財自体が私有物ということもあり、保管する場所の確保や保管方法など、実施に至るまで様々な課題があることが想定され、すぐに実現は困難と思われます。家財整理を含めて、空き家対策については、全国的な課題であり、研究が進められています。有効な情報などがあれば共有させていただきながら、地域の皆さんや関連機関の皆さんと課題解決に取り組んでいきたいと思っています。
空き家の裏に竹林があり、県道脇の電線に木がかかっている。竹林を整理するため、所有者の約8割の同意を得た。森林環境贈与税を活用して、整備できないのか。県道沿いの危険木は行政に切ってもらい、裏の竹林は竹林として継続的に活用するための整備について支援制度はないか。	竹林については、今後も地域課題となるものと考えている。放っておけば鳥獣被害につながる可能性もあり、虫が発生をするといったようなことも予想される。対応について改めて検討しなければいけない。該当する支援制度があれば、情報提供する。	【住民自治組織へ回答】 空き家の裏の竹林の整備に活用できる制度として、ひろしまの森づくり事業があります。地域団体で、荒廃した竹林の整備を提案していただき、みよしの森づくり協議会において、事業採択されれば、初年度は、市が森林組合に事業発注し、整備を行います。ただし、本事業では、市で伐採した竹の処分はできませんので、地域団体で処分していただくことになります。処分の際、チップ、無煙炭化器の貸出は無償で行っています。その後も、竹林整備(地域自らの作業)を事業提案していただければ、燃料代等の支援が出来ます。併せてチップ、無煙炭化器を活用し、継続して竹林の整備を行っていただけます。